

## 第104回日本精神神経学会総会

## シンポジウム

**Course for Academic Development of Psychiatrist への誘い  
：若手精神科医の国際的活躍及びネットワークの構築へ向けて**松本 良平<sup>1,2)</sup>, 杉浦 寛奈<sup>1,3)</sup>

1) 日本若手精神科医の会 (Japan Young Psychiatrist Organization: JYPO),

2) 日本医科大学医学部解剖学 (生体構造学), 3) 公立大学法人横浜市立大学精神医学教室

日本若手精神科医の会 (Japan Young Psychiatrist Organization: JYPO) が発足した目的の一つが、国際的に活躍できる日本の若手精神科医の育成であった。Course for Academic Development of Psychiatrist (CADP) は、WHO の精神保健部門の元代表であるノーマン・サルトリウス先生 (Prof. Norman Sartorius) と全国の精神医療を担うエキスパートを講師に迎え、精神医療に関する題材を通して国際学会での発表から論文執筆に至るまでの様々な技術を習得と学術的な発展を目指す学術プログラムである。また、CADP は2~3泊の合宿形式で行われることから、毎年全国から集結する若手精神科医から、貴重な交流の場として好評を博している。2002 現在まで7回が行われており、2009年2月に、8回目のCADPが、開催する予定である。

本稿ではCADPの内容およびその特色を紹介する。現在、CADPへの参加を経たJYPOメンバーおよびJYPOを経た中堅精神科医が、さらに研鑽を積みつつCADPで得たネットワークを育てている。学術的な活動に取り組んでみたいと少しでも思っている若手精神科医の方々に、またそのような若手の育成に興味を持たれている先生方に、本稿が一助となることを期待する。

**1. はじめに**

日本若手精神科医の会 (Japan Young Psychiatrist Organization: JYPO) は2002年に横浜で開催されたWorld Psychiatric Association (WPA) 総会時に世界精神医学会ならびに日本精神神経学会のご賛同のもと、2002年にその産声を上げた。その後今日まで活動を継続しており、2008年5月に特定非営利活動法人として認可され、新たなスタートを切ったばかりである。現在は大学病院、精神科専門病院、総合病院精神科、研究施設など多くの分野で活躍する若手が会員となり、相互に交流しながら研修会の開催、多施設研究の実践、学会における議論をし、国際的にもその輪を広げ、今後の精神医療の発展に寄与すべく努力している。

そのJYPOの活動の中心として挙げられるの

が、Course for Academic Development of Psychiatrist (CADP) である。CADPは、世界精神医学会と日本精神神経学会の共同事業として元世界精神医学会の会長であるノーマン・サルトリウス先生 (Prof. Norman Sartorius) を中心に開始され、これまでに7回を数えている。CADPは、国際的に活躍できる若手精神科医の育成を目指した学術プログラムである。JYPOの歩みは、CADPの歩みといっても過言ではない。実際に、CADPは2002年に横浜で開催されたWPA総会に合わせて初回が開催され、以後7年連続で開催されており、2009年2月に第8回目の開催を行うこととなっている。

## 2. 若手精神科医が学術的研鑽を積むにあたっての困難

本稿ならびに口演の主題は『CADP への誘い』である。筆者らは、8th CADP の開催責任者であり、参加者を募り CADP を成功させる義務があるのだが、筆者達自身の『CADP という素晴らしいプログラムをさらに発展させて、自らもより学びたい』という思いが CADP を運営するモチベーションとなっている。

シンポジウム当日では、まず『あなたはアカデミック (=学術的) でありたいか』という演者の問いかけから始めた。その答えは、様々であろう。肯定的なものもあれば、否定的なものもあろう。しかし、医学を学び医学に従事している限り、医師として精神科医としての知的好奇心および向上心は誰しもが持っていると思われる。したがってアカデミックな活動に全く興味がないということは、まずありえないのではないだろうか。

その一方で、われわれ若手精神科医はアカデミックなスキルをいつ、どこで学ぶのかといった大きな問題が立ちだかっている。2004年に新臨床研修制度が施行され、精神科医のキャリア形成は多様化しつつある。精神神経学会を中心に、どのように精神科医の専門性を確立するかは多くの議論がなされており、プログラムも充実しつつある。一方、若手の精神科医が学術的研鑽を積むことについてはどうであろう。従来、アカデミックなスキルを身に付け実践する場として機能してきた大学にも、医師不足および偏在の影響が及んでいる。従って、学術的側面への指導に十分な人的および時間的資源を割くことは以前より困難となっていることと推察される。

さらに、若手には初学者ゆえの困難がつきまとう。様々な方法論がわからないだけでなく、何で“つまづいている”のかがわからない場合もあるだろう。若手精神科医の学術的発展には、学術面での良き指導者に出会い十分な指導を受けることが必要不可欠であるが、昨今の状況では十分な指導を受けられるケースは幸運なのかもしれない。このような状況が続けば、学術的活動に対して悲

観的となり悪循環を起こすことが容易に推察される。若手を取り巻く現状を鑑みて、CADP では改めて『あらゆる若手精神科医が、質が高く普遍的なスキルを効率よく学び練習し身につける時間と場を提供する』ことを目指したいと考えている。

## 3. CADP のプログラム

CADP の特徴としては、主に以下の5点が挙げられる。

- (1) 国内および海外からの多彩な講師陣
- (2) 多彩な参加者
- (3) 合宿形式で全プログラムに全員参加
- (4) あらゆるレベルの参加者が学べる充実したプログラム
- (5) 全てのプログラムが英語で行われる

(1) 海外からは Sartorius 先生が、第1回から毎回来て下さっており、国際学会での立ち居振る舞い・魅力的なタイトルの作り方・口演およびポスター発表のノウハウまでを微に入り細に入り教授して下さい。また、JYPO の活動を支援して下さい国内の多くの先生方が、毎回講師として駆けつけて下さっている。2008年2月に大阪で開催された第7回 CADP の講師陣としては、

海外講師：Norman Sartorius, M.D., Ph.D.

国内講師 (五十音順)

秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

佐藤 光源 東北福祉大学大学院教授、

東北大学名誉教授

新福 尚隆 西南学院大学人間科学部

社会福祉学科教授

鈴木 友理子 国立精神・神経センター

精神保健研究所成人精神保健部

武田 雅俊 大阪大学大学院・医学系研究科・

精神医学教室教授

といった先生方に来て頂いた。毎年多くの先生方のご多忙の中快く引き受けて下さっており、ここでは全ての先生方のお名前を紹介できないが、改めて感謝の意を述べさせて頂きたい。

また、昼食時や懇親会では、普段接することが

できないような、様々な分野のエキスパートである講師陣と会食できるのも、若手にとっては、大いなる刺激となるはずであり、筆者ら自身も楽しみにしている一時となっている。

(2) 我々は医師歴12年以内を若手と定義しており、参加資格は、JYPO会員及びJYPO入会希望者で3日間の全プログラムに参加が可能であることとしている。したがって、必然的に日本全国からありとあらゆる若手精神科医が集まることとなる。臨床精神科医としてのキャリアでは、スーパーローテートを終えたばかりの医師から、既に精神保健指定医も取得しており医療現場の中核として活躍されている医師まで参加されている。また、興味のある精神科領域も様々である。研究歴としては、全く発表の経験もない者から国際誌に論文を発表し、学位も取得している者までといった具合である。このような、多彩な顔ぶれの若手が一堂に会して行われている学術プログラムである。

なお、CADPの参加回数は4回までと制限している。筆者の松本は本年度が4回目となり、杉浦は3回目となる。参加者の半分は初回参加者であるが、2回目以上となる者が約半数となる。このことから、多くの参加者を魅了する内容であることがおわかりになるのではないだろうか。

(3) CADPでは、3日間を通じて、全プログラム、全員参加を必須としており、部分的な参加を認めていない。会場及び宿泊は、例年同一施設を使用する合宿形式で、所謂“缶詰状態”で行われる点も極めてユニークである。様々な所属と経歴の若手精神科医が3日間、朝から晩まで顔を突き合わせて、拙い英語で慣れない発表や質疑応答・密度の濃いプログラムに四苦八苦する、そんな経験は国内外でもCADP以外ではできないのではないだろうか。これによって、3日間ではあるものの、“同じ釜の飯を食った同胞”という意識が生まれ、その後もCADPの参加者で様々な交流が継続されている。また、昨年度からは、海外からの若手精神科医も招聘しており、ともに学んでいる。したがって、CADPは交流の場としても

機能しており、これらの交流を通じて日本および世界の精神科医療への視点が得られ、世代および所属を超えたネットワークを得られることは大きな財産となるはずである。

(4) CADPでは、講演を聴くだけというプログラムは殆どなく、双方向性の演習形式に近い形式のプログラムが主である。プログラム自体は、ルーチンのものと毎回新規に企画したものとから構成される。以下に、例年のルーチン・プログラムについて説明する。

#### ●口演発表

CADP参加者自身が行い口演発表と座長を務めることは、通常の学会と同様である。しかしCADPでは、その口演発表・質疑応答に対して、どうすればより良い口演発表となるかを皆で討議し、それに対して講師陣からの確かなアドバイスを与えることを主眼としている。また座長の務め方についても、練習し学べる貴重な場である。

なお、口演発表の題材は、精神医学に関連していることが望ましいが、CADPに初めて参加する若手精神科医は、まだ研究に触れたことがない者も多い。そのような場合は、題材は自由に選んで頂くこととしている。CADPでは、題材には拘らず効果的なプレゼンテーションの技術を学び習得することを大切にしている。

#### ●ポスター発表

参加者がポスター発表を行い、それを題材により良いポスター発表への方法論を学ぶ。実際に各ポスターを講師の先生を中心としてラウンドしながら、一つ一つ検討していく。内容はもちろんのこと、タイトル・字のサイズ・色彩・構成・配置・図やグラフの質について、多くのアドバイスが行われる。ポスター発表と口演とは、発表に求められる技術体系が異なることが学べる。

#### ●タイトルの作り方

学会発表や論文発表、また研究資金に獲得においても、タイトルは極めて重要な比重を占める。良いタイトルを作る方法論について、実際の学術的論文を題材に演習を行う。例えば、Archives of General Psychiatryといった精神科領域で最

も権威ある国際誌に掲載された論文でも、ベストなタイトルを伴っている訳ではないことが、サルトリウス先生の手腕によって明らかにされていく。筆者らも、毎回楽しみにしているプログラムの一つである。

その他として、論文の読み方、シンポジウムの運営方法等も毎回行われており、第8回でも新企画を準備している。初学者が無理なく参加できることを最重視しているが、内容およびレベルとしては、論文発表や学会発表の経験が10回を超える先生方でも、多くを学べるプログラムであると自負している。

(5) 全プログラムを英語で行うことも、日本国内の精神科医を対象として英語で行われる学術プログラムとしては、極めてユニークであろう。同時に、参加者全員にとって、大変な負担であるのは間違いない。この点に関しては、多くの初回参加者が不安に思われるだろうが、英語に関しては全く心配しなくてよいと断言できる。講師陣から参加者に対して多くの指摘・指導がなされるが、目指しているのは普遍的な学術的スキルの獲得であるため、英語の技量そのものに対して行われることは殆どないことを強調しておきたい。

本口演時に、佐藤光源先生（東北福祉大学大学院）からは『CADPで行われている徹底した指導は、普段顔を突き合わせている所属施設内では不可能ではないだろうか。CADPが海外講師を中心として構成されるからこそ、可能ではないだろうか』とのコメントを頂いた。また、秋山剛先生（NTT 関東病院）からは『プレゼンテーションの技術は、日常臨床でも必須のものである。治療についての説明も、職場内での説明も、全てプレゼンテーションなのだから』と、CADPで学ぶことが日々の臨床から遠くかけ離れたものではないことに力強く言及して頂いた。したがって、『私は研究志向ではないのだが…』といった参加者も存分に楽しみ学べるはずである。

#### 4. CADP を経て

CADP への参加は次なるステージへのステッ

プともなりうる。CADP を契機に、精神医学をより探求したいと大学院に進学し研究に従事する者、国内及び国際学会での発表を目指して努力する者もおり、JYPO として支援も行っている。

また、JYPO が主体もしくは、大学及び研究機関と共同して行っている国内の共同研究が多数あり、CADP を経てそのような研究活動へ従事されるケースは多い。CADP では、第7回より海外からの若手精神科医も参加しており、今後は国際的共同研究にも着手していきたいと考えている。

留学への道標が得られるケースも多い。JYPO の先輩が運営されている研究室への留学や、サルトリウス先生から推薦をもらって留学された JYPO メンバーもいる。もちろん、各自の所属機関としっかりと相談しての上であるが、JYPO のネットワークに触れ、活用できるチャンスが得られるのは間違いない。

#### 5. 第8回 CADP 開催要項

8th CADP の開催概要は下記となっている。来年度以降も、継続を目指しているため、次回以降も含めて、多くの若手の参加を心より期待している。不明な点や参加希望の方は、遠慮なく事務局に問い合わせをいただきたい。

開催期間：平成21年2月20日（金）～平成21年2月22日（日）

開催場所：メイプルイン幕張  
〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-12-1

Tel : 043-275-8111 Fax : 043-275-8113

<http://www.mapleinn.co.jp>

主催：特定非営利活動法人  
日本若手精神科医の会 (Japan Young Psychiatrists Organization: JYPO)

共催：財団法人 精神・神経科学振興財団  
The Association for the Improvement of Mental Health Programmes (AIMHP)

## 応募資格

- a) 日本若手精神科医の会 (JYPO) に入会希望する者で、医師免許取得後 12 年以内の医師。
- b) 日本精神神経学会の会員であること。
- c) 全日程の参加が可能であること。

お問合せ先：

日本若手精神科医の会 (JYPO) 事務局  
(株)グレイ・ヘルスケア・ジャパン内  
e-mail: [jyposec@ghgroupjp.com](mailto:jyposec@ghgroupjp.com)  
TEL: 03-5423-7800 FAX: 03-5423-7477

## 6. おわりに

CADP は、JYPO メンバーおよび多くの支援者によって、第 8 回を迎えようとしている。特に CADP に快く若手を送り出して下さる、各医療機関ならびに研究機関に対して、この場をお借り

して、改めて厚く御礼申し上げたい。JYPO が活動を始めて既に 7 年が経過し、JYPO を卒業し、シニアとなった精神科医が国内および海外にて活躍している。今後、日本及び世界の精神科医療に少しでも貢献できるよう、引き続き多くの先生方のご指導・ご鞭撻を賜ることができれば幸いである。

なお、本稿が日本精神神経学会の会員の皆様の手元に届く時には既に 8th CADP は終了し 9th CADP への準備が始まっているはずである。CADP の内容については報告書として製本し、第 105 回日本精神神経学会総会での配布を行う予定である。同時に全国の大学の精神医学教室、精神科病院協会等へ送付させて頂く予定であり、御覧になって CADP および JYPO へのご意見・ご参加を賜ることができれば幸いである。